

# 京滋における染色と色彩に関する研究

奴賀 義春（社会人コース）

## 1. はじめに

環境保全に関わる研究課題として、「京滋における染色と色彩」について取り組んだ。京都・滋賀における染色と色彩の歴史に関する文献調査と草木染めの実践を行った。地域の人たちへ還元できる体験活動として、草木染めの有用性を評価した。

## 2. 京滋周辺の歴史的考察と染色について

京滋の染色を考える前提に歴史的背景を考察した。飛鳥・奈良・京都と続く高度な都の文化を最も強く影響を受け続けた京滋地区は染色工芸を育む恵まれた環境にある。高松塚古墳や正倉院の宝物を筆頭に多くの遺跡から発見された壁画や織物や布や紙などから古代色の復活を試みた吉岡幸雄氏や山崎青樹氏の書物を参考に、多くの色彩に関する研究資料や、関連して今も残る伝統行事や風習などについて資料を収集した。

## 3. 草木染めの実習

染色の中でも環境に出来るだけ優しい染めということで「草木染め」の実践を行った。染色材料としては、居住地域の土手や道端や公園などで雑草の草刈りや剪定作業で出た草木（セイヨウヤマゴボウの葉・枝・実、芝生、サツマイモの葉・蔓、柿や桜の葉、団栗、玉葱の皮、イチョウの葉など）を活用して染めることに徹して、染色過程と染色結果の関係を検討した。煮出し終わった草木は家庭菜園の肥料に活用した。染色方法については、滋賀県の伝統工芸品草木染組み紐製造者である大津市逢坂町の太田藤三郎氏の指導を受けた。木綿布を20の80℃の湯にKLC-1を10CC、KLCソーダを15CC加えたものに浸す前処理を学び、自宅で木綿布の前処理、草木の煮出40分、染浴40分、明礬を利用しての定着15分、木酢を使っての中和作業15分（温度68℃位）という手順で多種の材料を使って草木染めを実施した。草木染めの実践結果を以下に示す。

材料	染色	実施場所	備考	材料	染色	実施場所	備考
檀、インジゴ他	赤青黄	石山支所	市民講座	どんぐり	焦げ茶	大学農場	小学生対象
ゴボウ*の葉	濃黄土	自宅	上記の条件	刈った芝生	明黄土	自宅	上記の条件
玉葱	柿色	自宅	上記の条件	桜の葉	明柿色	自宅	上記の条件
ゴボウ*の実	濃黄土	自宅	上記の条件	モミジの葉	薄黄土	自宅	上記の条件
イチョウの葉	明黄土	自宅	上記の条件	ゴボウ*の茎	明黄	自宅	上記の条件
柿の葉	薄茶	自宅	上記の条件	サツマイモの蔓と葉	濃黄土	自宅	上記の条件

\*セイヨウヤマゴボウの略

## 4. 結論

草木染は前処理の有無で色の鮮やかさが顕著に異なり、各工程を一定にしても必ずしも同じものは出来ない。染色時間や季節によって色味が違って来るなどの奥深さを学びました。太田先生の工房で課題の色見本に合わせて染色する難しさと忍耐の必要性も体感した。これらの経験を生かして、草木染めを通して地域に貢献していきたいと考える。